



行事をとおして

11月6日（木）・7日（金）に6年生と修学旅行に行ってきました。主な見学・活動地は、吉野ヶ里歴史公園、熊本城、グリーンランドでした。

それ以外にも阿蘇の外輪山や熊本地震で崩れた山肌などを車窓から見ながら旅程を進めました。

昨今の物価高で、バスガイド・添乗員・カメラマンの随行なしでの修学旅行となりました。バスの中では6年生の子は、交代でクイズを出すなどして自分たち自身がバスガイドの代わりをしていました。

さて、修学旅行に限らず、ほとんどの学校行事で、それが終わると子どもたちは「楽しかった!」と言ってくれます。修学旅行はその最たるものかもしれません。

しかし、「楽しかった」だけでは行事を行う意義は半減、それ以下になると思っています。それぞれの行事には行う目的があり、子どもたちにはそこからの学びがないといけません。

修学旅行を例にとれば、観光旅行と異なり、歴史遺構から我が国の歴史を、集団で行動することから他者を慮る気持ちを、時間の制約があることから有効な時間配分を見通すことなど、行事が終わった後も実生活に生かすことを見出せているかで、修学旅行という行事を行った意義に違いが出てきます。

これは他の行事も同様で、学校や日常での学びを行事に、行事で学んだことを学校や日常に生かすという双方向の関係性を紡いでいくことで、子どもたちの成長を一層促していくことができます。

行事が単なる思い出作りにならないように留意しないといけないと思っています。学校での思い出とは、打ち上げ花火のような行事の瞬間的な切り取りではなく、毎日の学校生活の充実の中にあるものだと思います。